



同窓会報

2011

28



●発行 岩手県立花巻南高等学校同窓会
 事務局 〒025-0053
 岩手県花巻市中北万丁目288番1
 TEL (0198) 23-4236
 FAX (0198) 23-4365
 URL: <http://www2.iwate-ed.jp/hks-h/>
 印刷 藤高士印刷

ご挨拶



同窓会長

瓜生 祐子

平成二十三年の新春のご挨拶を
 申し上げ、まずもって会員各位の
 ご多幸をご祈念申し上げます。

いよいよ今年は二十一世紀の歴史に刻まれる母校の「創立百周年記念日」を迎えることになりました。

明治四十四年に入学された一回生から、この春四月の入学生まで限られた人のみが味わう慶事に、胸の高鳴りを覚え、感無量です。

その記念事業推進のために皆様から、大変なご協力をいただき、ありがとうございます。花巻南高校同窓会の団結力は、多くのの方々からも称讃されていますので、十月一日の記念同窓会も母校の栄栄を祈り乍ら「ばんざい」を声高らかに連呼したいものです。

例年の「定期総会」は七月初旬に設定し、五月の理事会の決定事項について報告されその後事業計画等、必要な件を承認する方式です、めて参りました。二十三年度

も形式は同じですが、百周年の祝賀会と合同して行うことになりましたので、ご理解の程お願いいたします。

今年度ののご案内(下記)のように実施予定ですが、少々案をお示し致します。

- ・式典は九時受付
- ・開始時間は九時半(予定)
- ・記念講演(生徒むけ)
- ※式典終了後十二時

・移動(文化会館から、祝賀会々場の千秋園へ)

協賛会では、ご来賓各位と同窓生で約六百人の参加を予定していますので、手続きをご確認の上、参加の申込みをなされますようお願いいたします。

◎ご案内をご覧の上、各自が判断して、各回期の理事に申し込んで下さい。

東京スカイツリーは世界最高を誇る六三四メートルが今年の完成です。その少しずつ高くなる雄大な姿に重ね合せ、仲間のみなさんで歓喜の声を挙げたいと念じ乍ら百周年記念の年頭のご挨拶を結びます。

平成23年度定期総会開催要項

花巻南高等学校創立100周年記念式典並びに祝賀会 平成23年10月1日(土)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
花巻市文化会館 大ホール	受付	記念式典	講演会	バス輸送			
花巻温泉 ホテル千秋園			同窓会 バス輸送	同窓会 受付	同窓会総会 感謝状贈呈式 オープニング	祝賀会 (来賓・学校関係者と合流)	

- ※ 上記の時間はあくまで予定時間で、変更になる場合もあります。
- ※ 講演会は、高校生向けの内容になる予定ですが、講演をお聞きになる場合は学校関係者と同じバスが各自でご移動下さい。
- ※ 祝賀会は、会費1万円(記念誌代を含む)で、正式な申し込みは例年同様振込用紙を使用し、振込後のキャンセルはできません。
- ※ 申し込みは各理事を通して行いますが、第一次申し込み締め切りを3月31日に延期します。
- ※ 宿泊の希望も、各理事の申込書に記載するようになっていきます。(1泊朝食：前日・休前日料金、当日=5,000円)

※ 不明な点は、各理事又は、学校事務局にお問い合わせ下さい。(TEL 0198-23-4236)



創立100周年を

迎えるにあたって

校長 菊池 豊

日ごろから本校教育活動

に寄せられますご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。

今年の干支は「卯」です。

「卯」は身近なこともあり童話や譚などにいろいろ登場しますが、総じて「すばしっこする賢い」「どこか抜けている」というイメージがあり、良い例えで用いられることは少ないように思われます。しかし、兎には「耳が敏感で、瞬発力があり、集団的傾向を持ち、多産系である」という優れた特性があります。今日の社会が必要としている情報力、実戦力、協働性、出生率向上など、兎の特性に通ずるところが多くあり、まさに世相を表した干支ということもでき、この一年に希望を託したい思い

がします。

〈創立100周年記念事業 について〉

本校はいよいよ今年、創立100周年を迎える大事な節目の年となります。同窓会の皆様には、記念事業推進に当たりご協力ご支援をいただき感謝申し上げます。

現在までの記念事業についてはほぼ計画どおり進んでいますが、今後の事業については募金活動状況により検討を加えながら進進してまいりたいと考えています。

主な記念事業については三頁のとおりとなります。今年度は、最大の記念事業となる人工芝運動場(1、300万円)を体育館部室前に建設し、昨年11月15日に創立100周年記念協賛会

月16日にかけて、硬式野球部、ソフトテニス部、剣道部、ハンドボール部が著名校との招待試合(硬式野球部等は花巻北高校創立80周年記念協賛会と共催企画)を開催します。現在相手校と交渉中でその日時等が決定次第、本校ホームページ上に開催要項を掲載しますので、どうぞご覧いただきたいと思っております。

一昨年から同窓会の皆様には、募金活動にご協力いただき心から感謝申し上げます。昨年7月以降、一般事業所、篤志者、旧職員、現職員への募金のご依頼、そして花巻市、北上市等関係市町への協賛金要請など、創立100周年記念事業募金委員会、同窓会役員、PTA役員の皆様による募金活動が精力的に行われて

ます。全体的な成果としては昨年並みの成績となりました。

「本校の概況について」

昨年度は、新型インフルエンザの対応に終始した感がありましたが、今年度は現在までほとんど発症はなく、落ち着いた教育活動が行われています。本校の特色の一つである海外ホーム

ステイ研修は、韓国に5名、オーストラリアに10名を派遣し、また、ドイツから12名、韓国から10名を受け入れました。また、国際科学

学系2年が米国・ハワイ修学旅行(ホームステイ研修含む)も無事終了し、姉妹

校生徒やファミリーとの交流などの異文化体験とこの国際理解を深めることが

出来ました。部活動においては、運動部ではソフトテニス(女子)、体操(女子)

が県高等学校総合体育大会で連覇を果たし、陸上円盤投げとともに沖縄インター

ハイに出場しました。また、ハンドボール部男子が新人

大会で創部以来初の3位と大健闘を見せられました。

文化部長は特撰(女子)が県大会優勝、全国高等学校総合文化祭宮崎大会に出

場するなど活躍をみせてい

ます。

進路面においては、進学(90%)では、大学等の進学率50%、国立大学10%の目標をほぼ達成するとともに、就職(10%)においても厳しい求人状況のなか全員定まで後一步のところまで迫っています。進学、就職とも他校に比べてもよく健闘しています。

〈終わりに〉

私事ですが、本校初任3年間、そして校長としての3年間、同窓会の皆様には大変お世話になりました。

この3月末をもって退職となります。創立100周年を迎える歴史と伝統に輝く本校に微力ながら勤めさせていただきましたこと幸せに思っております。謹んで御礼と感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

最後に、日本一の花巻南高等学校同窓会です。

ご発展と会員の皆様のご健勝、そして創立100周年の諸事業の成功をご祈念申し上げます。

また、国際文化交流事業としては、8月26日(花南祭初日)には、花巻市文化会館で海外姉妹校3校を招聘して「国際フォーラム」と

文化部のステージ発表を企画しております。また、5

月16日にかけて、硬式野球部、ソフトテニス部、剣道部、ハンドボール部が著名校との招待試合(硬式野球部等は花巻北高校創立80周年記念協賛会と共催企画)を開催します。現在相手校と交渉中でその日時等が決定次第、本校ホームページ上に開催要項を掲載しますので、どうぞご覧いただきたいと思っております。

一昨年から同窓会の皆様には、募金活動にご協力いただき心から感謝申し上げます。昨年7月以降、一般事業所、篤志者、旧職員、現職員への募金のご依頼、そして花巻市、北上市等関係市町への協賛金要請など、創立100周年記念事業募金委員会、同窓会役員、PTA役員の皆様による募金活動が精力的に行われて

いますが、経済状況の低迷により事業所等の一般募金

が厳しい状況にあります。

まだ未納の同窓生、本校関係者、篤志者などにお声を掛けご協力をお願いしていただければ幸いに存じます。

創立100周年記念事業の成功に向け、今後とも一層のご支援ご協力をお願い

いたします。

恩師寄稿

花南への感謝

松田順子先生



私は花巻南高校に昭和37年4月から43年3月までお世話になりました。26才、32才までの6年間、学校のみならず地域の方々にも大変お世話になりました。

音楽を担当し、及ばずながら担任も経験させて頂きました。私はこの平成23年1月で何と75才になります。花南から盛岡二高に移りまして51年3月、40才で教職を退きました。

現在、女声合唱団花野、花巻ユネスコ・ペ・セルクル、北上・コーラスせらぎ、仙台の宮一女OG合唱団の指揮をしております。

昭和37年頃はマイカー通勤などという言葉も無く、私は盛岡の自宅から朝6時頃バスで盛岡駅へ、汽車で花巻まで約1時間位でした。他校の先生方や営林署の方、谷村新興の方々も多

く、石鳥谷や二枚橋からの高校生共々、忙しい通勤生活を送りました。

花城町の創立以来の校舎は、木造二階建ての趣のある明治建築で、柳を従えた校門や鳴き龍の玄関など思い浮かびます。裏は校庭で、その後ろに寄宿舎がありました。

私は着任早々舎監を仰せつかり、六人の男の先生と女性は一人の7名で交代で寄宿舎に一週一回の割合で泊まることになりました。土沢や大迫等からの舎生は非常にお行儀もよく優秀で、舎監をして困ったことは一つもありません。あまりキチンと巡回もせず舎生より早く寝てしまいうのん気なものでした。高女時代の校舎が古くなり、木造のためダニが発生

し、カユミを添える生徒が出て来て、己むなく解体となり寄宿舎の跡にいわゆる新校舎が建ち、今、まなび学園として使われていることとはご承知のとおりです。

新しい中北万丁目の現在の花南には機会がなくて伺ったことはありませんが、男女共学となり新しい時代の道を進んでおられる事は旧職員として嬉しい限りです。

さてクラブ活動のことで、その頃はとても盛んで、生徒は全員いずれかの部に属することになっていて、放課後は先生方も第二の授業とばかり共に活動していました。運動部は全国レベルでしたし、文化部も委員会活動も充実したものでした。

校長先生は国文学者で高い識見をお持ちで、愛情深く優しい方でした。そして教頭先生は厳しい方でしたが自身も運動部で生徒と共に汗を流すといった方でしたから私職員も安心し自由な活動が出来たのではないかと今にして思いま

す。音楽部で私が特に気をつけたいことは、練習は休まず真面目に、休まなければならぬ時は必ず部長が私に伝えること、これを習慣にするということでした。人数が多いからといって一人一人の責任は重いことを

身に付けてほしいので、まして運動部並みの練習で日曜も休みませんでした。それから、遊びたい年頃故、こんなこともありました。

ある秋の土曜日の午後、四、五名の部員が近郊のブドウ園にブドウ狩りに行ってしまいました。私が恐い顔で指揮をしているうちにかなり雨が降って来て、やがてズブ濡れで自転車帰って来たブドウ園組のスカートはすっぴん髪がなくなっていてイヤイヤ第一巻の終りとなりました。

段々合唱コンクールにも入賞するようになり、昭和42年にはNHK県大会で一位になったり、全日本合唱コンクール東北大会にも出場して入賞しました。42年1月に第一回定期演奏会、43年1月第二回をや

つたことは、練習は休まず真面目に、休まなければならぬ時は必ず部長が私に伝えること、これを習慣にするということでした。人数が多いからといって一人一人の責任は重いことを身に付けてほしいので、まして運動部並みの練習で日曜も休みませんでした。それから、遊びたい年頃故、こんなこともありました。

ある秋の土曜日の午後、四、五名の部員が近郊のブドウ園にブドウ狩りに行ってしまいました。私が恐い顔で指揮をしているうちにかなり雨が降って来て、やがてズブ濡れで自転車帰って来たブドウ園組のスカートはすっぴん髪がなくなっていてイヤイヤ第一巻の終りとなりました。

段々合唱コンクールにも入賞するようになり、昭和42年にはNHK県大会で一位になったり、全日本合唱コンクール東北大会にも出場して入賞しました。42年1月に第一回定期演奏会、43年1月第二回をや

つたことは、練習は休まず真面目に、休まなければならぬ時は必ず部長が私に伝えること、これを習慣にするということでした。人数が多いからといって一人一人の責任は重いことを身に付けてほしいので、まして運動部並みの練習で日曜も休みませんでした。それから、遊びたい年頃故、こんなこともありました。

のちへ、課題曲や自由曲等かなりの数になります。若い頃の一方的な指導しか出来なかつた私に花南の生徒さん達は素直について来て呉れて合唱を今も好きでいてくれることは私の一番の喜びです。貴重な六年間とその後も続いている花南同窓の方々とのご縁に深く感謝申し上げます。

平成23年1月記



女声合唱団 花野 2010.11.14 於 岩手県民会館
松田 昇、松田順子合唱指揮105年記念演奏会

会員より

趣味に生きる幸せ

吉田紹子

(南高2回)

「光陰矢の如し」南高を卒業して五十数年あつというまにすぎさり、先日鶴田やす子さんから「花南同窓会報」の会員だよりに投稿していただき「との御ハガキもいただき、平々凡々に生きている私など資格なしと料しました。でも参考資料の会報を拝見したら、私が尊敬している同期生の阿部美子さんが座談会に出席されているのを拝見しなつかしいいなりにペンを走らせました。記したき事いっぱいですが字数が制限されてますので私の趣味に生きたけ記します。



宮守ホールにて「女のくぐれ」(10月17日)

だき遠野市民の方々に身にあまのおほめのお言葉をいただき宮

味を一寸だけ記します。日本舞踊を二十五年程楽しんでます。又パッチワークも同じ年数続けています。花巻文化会館でも踊らせていただき、今は老人施設等で踊りボランティアをしています。舞台にたつている間は年を忘れてヒロインになっています。パッチワークは古い和服等を利用して「めがね橋」を布絵で描いたり衝立や屏風を作り自己満足にひたつています。好きな事をしていると一日がたりない毎日です。趣味をとおして友達もたくさんふえて「我が人生に悔いなし」と思っています。

先日遠野市老連の文化祭に宮守町が舞台で42名が心ひとつに「遠野ばやし」を踊って、美しさ

守町老人クラブの女性部長として心からいきがいを感ずして参加して下さいました。四十二名の皆さんにお礼を申しあげました。七十四才になつても舞いで生活出来ることを私に接していただいたことすべての方々にお礼申しあげます。来年母校「創立百周年」記念祝賀会にはかならず参加させていたどうかと今から楽しみに待っています。瓜生会長さんをはじめ、実行委員の皆様御苦勞に感謝申しあげます。寒くなつてきますので、くれぐれも無理をなさらず御自愛下さい。「創立百周年記念祝賀会」の成功をお祈り申しあげます。

告白

藤原耕作

(南高3回)

昨年の10月に花巻市(大迫町)と友好都市交流をしているオーストリアの首都ウィーンに近い町ベルンドルフ市へ市民ツアーの一員として参加いたしました。市民ツアーは訪問団と

は違い観光目的でしたから連日ウィーン市内の観光を楽しんで参りました。出発前は旅行日程を見て

宮殿とか寺院、修道院見学など日本ではおぼろげに期待していませんでしたが、町そのものが世界遺産というところ、見慣れない風景の目新しさも手伝つて至る所にある彫刻や絵画、あふれる音楽、芸術の都のすばらしさ、これが数百年も同じ状態で保存されていることへの驚き、思い切つて参加して良かったと思います。

しかし、それにしてもオーストリアに来たのは初めてでないような気がしましたがそれは何故だろうと帰りの機内で思いました。オーストリアの地方の名前や大きな都市名、山や川の名前などを聞くとオーストリアのどの辺なのかが頭に浮んで来る、私はすっかり高校時代を思い出しておりました。

「このクラス

に花巻地区で一番の88点の人がおります。すごいことです」先生はそう言つて答案を席順に渡し始めました。二年の2学期が終わる頃だったと思う。日報の学力テストと云うのがあり進学組のほとんどもは受けていたと思う。私も答案を受け取つて席に戻り開いて見てびっくり、なんと88点ではないか。

私は社会という科目をあまり得意としていなかったけれど、この先生の受け持つ人文地理だけはいつも楽しく、先生のお話は全て聞き逃すまいと大きな耳と目で吸収したいと思つた。

私達はこの先生のことをサザエさんとニックネームで呼んでおりました。髪型がや、マンガのサザエさんに似ていること、顔もそう言つても誰も異論のない愛らしいユーモアな感じが



する。私はサザエさんに好意を持っておりました。サザエさんの授業では声を聞けること、姿を見ていれることが嬉しくて人文地理の時間が終わるまでほしいと思つたものです。

花巻南高校を選んだ理由は中学の担任の先生に「近いから」と推められて、あまり目的もなく入学してしまつた。私達の学年は男子が50人、しかし圧倒的に女子の多い学校でした。一年の時、休み時間に外に出て北高を眺めながらこの学校を選んだことを悔んだものです。

それが二年になつてからは一変して登校するのが楽しくなつてしまいました。当時の私の通学は自転車でした。どんなに雨風でも冬の雪道(当時は除雪などなかった)でも片道7キロを毎日自転車をごいで通学したのです。それを苦勞とも思わないで出来たのはサザエさんの存在があったからだと思います。

そして今年業して55年も経つのに世界地図がオーストリアの地図が私の頭の中

創立100周年記念同窓会寄付金協力者追加芳名簿

- | | | | | |
|------------|---------|---------|--------|--------------|
| (高女33・34回) | 伊藤 蓉子 | (南高8回) | 藤原 タカ子 | 佐々木 智恵子 |
| (高女35回) | 及川 智栄 | (南高9回) | 秋山 裕美 | |
| | 小原 京子 | (南高25回) | 高橋 陽子 | 久美子 |
| | 照井 孝子 | (南高11回) | 鎌田 光子 | 伊藤 和恵 |
| | 高橋 キエ | (南高10回) | 及川 佳哥 | 喜古 千栄 |
| | 柳田 清子 | (南高35回) | 菊池 悦子 | 吉田 千栄 |
| (高女36回) | 鈴木 木京子 | (南高14回) | 木立 洋子 | 中村 佳寿美 |
| | 玉山 ユキ | (南高37回) | 佐藤 悦子 | 五十嵐 桂子 |
| (定時制29年度卒) | 照井 浩 | | 山藤 照子 | 下浜 千賀子 |
| (定時制33年度卒) | 菱川 怜子 | | 小野寺 澄子 | 高橋 朱里 |
| (定時制37年度卒) | 岳間沢 コマ子 | | 藤原 照子 | |
| (定時制41年度卒) | 吉原 恭子 | | 村口 孝子 | |
| (南高1回) | 下坂 久美子 | (南高15回) | 石崎 誠子 | 高女26 佐藤フヂ |
| (南高2回) | 吉野 留子 | | 川内 律子 | 志田恵子 |
| | 菅野 秀介 | | 内藤 富美子 | 南7 瀬戸恵美子 |
| | 及川 英子 | | 佐藤 文子 | 石井恵美子 |
| | 山影 純子 | | 高橋 タイ子 | 高女22 高山ヨシ |
| | 高山 由紀子 | (南高16回) | 中澤 優子 | 南2 田村 優子 |
| | 高山 アツ子 | | 佐藤 明子 | 南15 高橋タマ子 |
| | 馬場 英紗子 | | 武田 洋子 | 小坂タマ子 |
| (南高4回) | 八重 隆昇 | | | |
| | 加藤 由紀子 | (南高2回) | 藤田 満和子 | 御芳名は敬称略、順 |
| | 岩淵 タイ馨 | (南高2回) | 高橋 幸子 | 不同に掲載いたしました。 |
| (南高6回) | 佐々木 伸子 | | 高橋 久子 | ※寄付金は、平成23 |
| (南高7回) | 松崎 欣子 | | 江端 祐子 | 年8月31日まで受け |
| | | | 小原 朋子 | 付けますので、よろ |
| | | | | しくお願ひします。 |

事務局だより



瓜生同窓会長 「岩手県私学教育表彰」受賞記念祝賀会



内田スワさん 「法務大臣表彰」祝賀会

〈同窓生名簿の販売〉

創立百周年を記念して昨年度発行された同窓生名簿の残部が若干ございますので、希望される同窓生に販売いたします。(1冊3、六〇〇円)。名簿発行は今回で最後なので、この機会にぜひ購入下さい。

- | | |
|---------|--|
| 平成二十二年度 | 同窓会事務局日誌 |
| 22年 | 4月1日(木) 役員会 |
| | 4月2日(金) 入学式、新任者歓迎会 |
| | 4月7日(水) 役員会 |
| | 4月11日(日) 東京支部総会 |
| | 4月16日(金) 会計監査 |
| | 4月28日(水) 第1回常任理事会 |
| | 5月15日(土) 総会準備会 |
| | 6月27日(日) 支部総会(東和・石鳥谷・北上) |
| | 7月7日(水) 総会準備役員会 |
| | 7月11日(日) 全国総会(ホテル千秋園) |
| | 7月13日(火) 定期大会出場部激励会 |
| | 8月6日(金) 総会反省会 |
| | 10月7日(水) 役員会 |
| | 10月18日(日) 第2回常任理事会 |
| | 10月24日(日) 盛岡支部総会 |
| | 11月4日(木) 第1回同窓会報編集委員会 |
| | 11月12日(金) 人工芝竣工式 |
| | 11月26日(金) 「創立100周年記念同窓会寄付金協力者名簿」郵送準備作業 |
| | 11月20日(土) 法務大臣表彰祝賀会 |
| | 12月5日(日) 第2回理事会 |
| | 12月12日(日) 瓜生会長「私学教育表彰」祝賀会 |
| | 同窓会報座談会 |
| 23年 | 1月8日(土) 役員会 |
| | 1月14日(金) 第2回同窓会報編集委員会 |
| | 2月27日(日) 臨時常任理事会 |
| | 2月28日(月) 100周年記念「花南讃歌」贈呈式 |
| | 3月1日(火) 同窓会入会式 |
| | 3月22日(火) 花南讃歌披露 |
| | 卒業式 |
| | 同窓会報第28号発行 |
| | 転出者送別会 |

いろいろなアイデアを出し合い楽しく交流が出来るよう工夫して活動を続けています。



盛岡支部第1回設立総会

【箱崎光子さん(石鳥谷支部長)】

石鳥谷支部の会員は、約700人と言われています。郵便費相当額の会費をいただいております。年100円、2年ごとの総会ですの200円をお願いしております。毎年田植えが終わった頃の6月に総会を開きます。会場はいつも、同窓会が経営しております「新亀家」さんでやっています。総会の周知は、連絡員さんを決めまとも

らいます。

支部は、瀬川ハナさんと佐藤まつさんが来られまして、指導があつて始まったと記憶します。会員名簿をつくりましたことが、平成16年に不都合なことがあり取りやめました。その後、3月の卒業期に学校にお願いして卒業生名簿をもっているの事務局にはあります。支部創立から苦勞をおかけした方々がありますので、100周年の前年であり今年には、同窓会員で99才の方に紅白の餅をお祝いに差し上げました。会員には「白寿99年」を記念して記念のフアイルを作成し配りました。総会に出席なさらなかった方にも班長さんが、餅と資料を持って訪問し手渡しして配りました。班長さんには、ご苦勞の粗品を差し上げております。支部交付金を有効に活用しております。

【藤井安子さん(東和支部長)】

東和支部は、平成3年に結成されました。小原前支部長さんが16年間つとめら

れその後、私が引き継ぎました。支部は、今年21年目になります。支部長になつて規約を見直し、東和に合った改正をしました。改正では、88才になられた会員にお祝いのご遺族に弔電を送ることを決めました。早速、米寿の方にお祝いを申したところ、たいへんよろこんで頂きました。この方は、毎年同級会をしているそうですし、100周年の記念行事に3人が参加する予定です。又、東和支部では今年ごとに参加者を募りバスで参加を計画しています。

【司会者】

支部長さんからひと通りのお話を伺いました。ここで、前会長で顧問でございます箱崎様、そして瓜生会長さんから、同窓会本部で役員を務められた歩みをお話し頂きます。

【箱崎敦子さん(同窓会顧問)】

私が同窓会の役員に関わるようになったのは、60周年の式典が終わつた後

のことでした。当時、会長は小原リセさんでした。そのあと、瀬川ハナさんが2代目の会長で佐藤まつさんの副会長、役員さんには花巻で名の知れた立派な方々がおられました。

ある時、瀬川会長さんから、「ちよつと学校に顔を出してちょうだい」と言われ、初めて出かけました。そこは同窓会の理事会の場でした。会長さんと理事さん方は、私の母親の様な存在の方々でした。私に、「副会長になるように」と、突然のお話でした。辞退する言葉も出さず引き受けました。

当時、花巻高女を卒業した人達はプライドを持って各方面で活躍しており、県内・市内の婦人活動をリードしている方々が多くおられました。

会長は、平成7年から平成14年までつとめました。平成13年(2001年)には「花巻南高校創立90周年」の記念式典、祝賀に関わりを持たせていただきました。

同窓会の誇るべき事業の一つは、毎年7月に行う定期総会に、300人を超える会員が集い、中身の濃いプログラムが組まれた企画があることです。他校には真似の出来ない南高独特な発想と個性が息づいていることですね。

活動の中で印象深いことは、全日制と定時制の同窓会を統合し一本化したこと。女子が全国女子駅伝の出場を決め、京都大会に同窓会から応援に行つたこと。国際科が生まれ国際交流活動を支援してきたこと、など等です。

【瓜生祐子同窓会長】

同窓会としてご挨拶を兼ねお話しします。本日は本当にありがとうございます。なにかと支部長さんにご苦勞をいただいております。謝申しあげます。

役員になった経緯は、箱崎さんがお話しされましたとおり、私も同じ路を歩んできました。共に副会長と会長を経験した者として

「いこと」を、全うすることに努めてきました。ですから支部長さん、役員・理事・会員の皆さんに無理を強いることもあり、100周年事業に関しては味更きつて要請をしているところですね。高女時代の校風を受け継ぎ、伝統校の校に恥がない「花巻南高等学校100周年記念事業」を成功させることは、同時に同窓会活動の集大成でもあります。皆さんから評価されるよう努力することが、私に課せられた使命と思ひ会員の皆さんや市民の皆さんにお願いしている毎日です。

【司会者】

後半は、100周年への取り組みと今後の活動について所見をお伺いします。

【瓜生会長】

100周年記念事業に対する同窓会の取り組みは、①「募金活動に多くの会員が参加し目標達成させること」、②「母校意識を高め、記念事業に参加すること」、③「式典・祝賀会を成功させるために周知と点検をし

つかりやること”です。

①の課題は、年齢層が若くはどの協力度が低いことである。②については、100周年記念を周知させるため会報の有効利用を考え、会報の会長挨拶を別愛して目につくよう編集願います。

③は、卒業年次の担当回期の取り組みと理事の積極的な働きかけが大切ですので徹底を図ります。特に花巻地区の対策が必要です。

会員の皆さんには、支部の支部数や地域の事情を考慮して頑張ってください。活動はしております。支部長さんは募金専門委員にもなっておりますので、募金委員会の指示と併せ、会員の募金協力についてご配慮いただくことを願っています。

今後の同窓会のあり方を考えますとき、高女時代が35年、南高時代になって65年が経過していることを認識して欲しいことです。今までは、高女の人達が会長をつとめて来ましたが、100周年後の運営は、南高時代を継ぎたい人達が主体になるべきです。

校に対する意識が高く、母校愛が強いことも確かです。しかし、所詮、世代交代が世のなりでありまして、先輩たちの気持ちも継承し活動することを期待しています。旧花巻市内における活動については、原則上、規定の組織ではありませんが、支部組織の形を整えてありますので、どの様に機能組織とすべきか検討したいと考えています。

卒業時には、学校の配慮により学級ごとに委員を決めていただいています。その後、きめ細かい情報提供や会合等を持っていませんので、対応を考える必要があります。肝腎なことは委員になっていない人達が、総会に参加し易い環境をつくることかと考えます。在学中に入会金を2,000円納めてくれているのですから、可能な限り会報をどけることを考えたいのですが、予算措置が可能かどうか検討する必要があります。

校に対する意識が高く、母校愛が強いことも確かです。しかし、所詮、世代交代が世のなりでありまして、先輩たちの気持ちも継承し活動することを期待しています。旧花巻市内における活動については、原則上、規定の組織ではありませんが、支部組織の形を整えてありますので、どの様に機能組織とすべきか検討したいと考えています。

これまで同窓会が高女卒

のプライドを持った人達によって支えられてきたのだと感心します。

高女の方々も南高校になってからの私達、特に近年の卒業生の母校意識には、大きな「意識格差」が生じていると思います。母校意識の差は、ようするにプライドの差によるものと感じます。今の卒業生に同じ母校意識の共有を求めたいことはとても無理があると思います。

100周年後の同窓会のあり方は、いま、「100周年」というキーワードがあるから同窓会への意識が生まれています。終わつた後の支部の運営に悩みが

あります。総会参加を呼びかけするのになにか引きつける内容のあるものを考えなければと思つていますが、隔年ごとの総会ではないのか、集まる機会が少ないと、どうしても結びつきが弱まります。総会だけでなく、交流の機会を多くつくること、同窓会会報が多くなること、同窓会会報が多くなる人達に届くようにすることが必要と思つています。

大迫に支部がないので

谷に近いのですから一緒に

同窓会である方に、会報が届くよう検討すべきと考えます。

少子高齢社会にあつて、孤独な生活をしている人が多くなつていまして、同窓会員にそのような人がでないように励まし合う仲間でありたいと思つています。仲間意識の強い関係は同級生です。支部の範囲だけでなくクラスとか学年ごととかの集まりをもつ工夫は、同窓会の理事さんが企画し呼びかけすることがポイントになると思つています。クラス会や学年会をするときは、担任の先生の影響があるのですから、本部の対応が必要と考えます。

100周年後のこれからについては、石鳥谷支部の活動はこれまで通り継続的に取り組めます。若返りは常に意識しますが、年齢の多少のことでなく、バランスがとれた役員体制を意識しながら、やる気のある人を育てたいと思つています。

支部会員700人のうち、530人の方が会費を納めてくれますので、この勢いを大切にしていきま

必要と思つています。北上支

情報保護の観点から難しさもありまして、卒業年次、「ブロック別」、「年別」の氏名が判る名簿が必要で、同窓会本部が作成について考慮願います。

新しい同窓会名簿により、まずと、北上市内に、1、000余名(物故者含む)の会員がおるようです。年一回の総会時に本部から交

返りを図る必要があります。それが経験から学べることがありますので、一氣に交替するのではなく意識的に後継者を育てる努力が

必要と思つています。北上支

の課題は、地域性を考慮したブロックの集まりが出来るようにしたいです。個人情報保護の観点から難しさもありまして、卒業年次、「ブロック別」、「年別」の氏名が判る名簿が必要で、同窓会本部が作成について考慮願います。

新しい同窓会名簿により、まずと、北上市内に、1、000余名(物故者含む)の会員がおるようです。年一回の総会時に本部から交

返りを図る必要があります。それが経験から学べることがありますので、一氣に交替するのではなく意識的に後継者を育てる努力が

盛岡支部の課題は、会員



【藤井安子さん】

これまで同窓会が高女卒

【稲崎光子さん】

大迫に支部がないので

【齋藤澄子さん】

返りを図る必要があります。

【堤 世知子さん】

盛岡支部の課題は、会員

の参加者は100人前後です。もっと多くの参加者にするための対策をすることです。市域が広く、散らばっておりますので、大先輩が遠くから出席する時など、その対策も同時に考えなければなりません。同窓会報を全会員に頒布するには郵送しかりません。郵送費を捻出することを支部でも考えますが、基本的には本部が予算措置してくれることを希望します。支部総会に男性の方の参加が少な

いのです。南高4回生以上の卒業生と定時制の方しかおりません。絶対的に少ない訳ですから、女性主体にならないを得ません。又、新校舎になり男女共学になった80周年以降(男女共学からの)卒業生は把握出来ていません。新しい同窓会名簿で調べはつきましようが、男性の呼びかけは難しいことですね。

〔箱崎敦子さん〕

子育てが終わった時期には、高校だけでなく小中の同級生の集まりがまっています。南高4回生以上の同級生を持つよう同窓会から緩やかに誘導することも考えられます。一つには、総会の時期に併せるとか、特に厄年や年祝いの節々には、小中の同級、高校の同級の集まりがあるはずですからそうしたタイミングを大切にしてほしいです。

〔司会者〕

「瓜生会長」
学年ごとのまとまりがあるかどうかが決手になるのではないのでしょうか。学年同志の結びつきや仲間意識は、担任の先生の影響をうけている感じがします。勉強の他に、社会教育的視点からの教えが必要だと思います。同級生仲間の絆を大切にする点、母校に感謝する心を育むような先生からの一言を卒業する際に触れていただくことをお願いしたいと感じています。

100周年記念事業を終えた後の活動のあり方のお話がありました。若年層の会員の参加を増やすには、どうすればよいか、特に、男性への呼びかけの難しさを課題であるようです。ここで校長先生から、これまでのお話を聞きかしての感想と助言をお伺いします。

も課題であるようです。ここで校長先生から、これまでのお話を聞きかしての感想と助言をお伺いします。

流になつていふこと。他校にない優れた存在の同窓会です。男性の参加のことは、男性自身の意識を引

き出す工夫が必要ですが、クラブ活動で育んだ仲間意識と連帯感の絆を引き出すこと。これを計画的に企画すればその機運は醸成されていくと思えます。また、PTAの役員をしている同窓の方

がおりますので理事になつていただくことを検討する

も問題の一つです。それでも一年一回の総会に、青春を振り返り、ふるさとの思いを語る場として現状維持にとどまらず、一人でもお仲間を増やしたいと念じています。そしてこの気持ちで次の世代にバトナツチするまでがお役目と思つています。

この頃の思い出があまり出ず。若い貴方たちが会費を出すのは大変でしょう。会費を免除するからお手伝いしなさい」と、当時仕出しのお弁当に、お味噌汁は自分たちで温めて出していたのですが、慣れないお運びをしたものでした。気さくなアットホームの感じでした。

第22回総会で3代新井榮氏。第35回4代竹内英子氏。第38回5代富沢明子氏。第44回6代速藤カツ氏。第45回で7代山口妙子氏に就任。47回総会で(平成12年)現在の「若手県立花巻南高同窓会東京支部」に改名。理事制の確立となりまし

奇稿 南高同窓会東京支部を振り返つて

東京支部長 矢野光子(南高8回)

昭和28年11月29日、若手

県花巻木ノ花会の東京支部として東京木ノ花会第1回

総会開催。会費200円、参加者23名。初代会長松岡

幸氏とのことです。

第14回目の総会で簡井フ

ジ氏就任、132名もの参加者

をみたとす。

この頃の思い出があまり

出ず。若い貴方たちが会費

を出すのは大変でしょう。

会費を免除するからお手伝

いしなさい」と、当時仕出

しのお弁当に、お味噌汁は

自分たちで温めて出してい

たのですが、慣れないお運

びをしたものでした。気さ

くなアットホームの感じ

でした。

第22回総会で3代新井

榮氏。第35回4代竹内英

子氏。第38回5代富沢明

子氏。第44回6代速藤カ

ツ氏。第45回で7代山口

妙子氏に就任。47回総

会で(平成12年)現在の

「若手県立花巻南高同

窓会東京支部」に改名。

理事制の確立となりまし

た。在籍、高女卒150名、

南高卒563名との記録が

ありまし

た。

第55回総会(平成20年)

8代支部長として矢野光

子

就任。

今後の支部活動問題とし

ては、高齢のため高女の

方々の退会があります。ま

た、若い会員の入会を望ん

でいるもの。只今は年に1

人程度に留まっております。

毎年春の総会時に本校

から校長先生や会長さんが

お出かけ頂いてます。そ

の際には新卒者の名簿を頂

戴するのですが、その時点

では東京の住所が分から

ず、連絡の取りようがない

のが現実です。また、40

50代はお仕事を持たれて

いる方が多く理事を引き受

けていただけだということ

も問題の一つです。

それでも一年一回の総

会に、青春を振り返り、ふ

るさとの思いを語る場とし

て現状維持にとどまらず、

一人でもお仲間を増やした

いと念じています。そして

この気持ちで次の世代にバ

トナツチするまでがお役目

と思つています。



支部だより

東京支部

副支部長 角田早致子
(南高16回)

平成22年度の東京支部総会は4月11日に上野・精養軒で開かれました。4月としては41年振りに雪が降った東京でしたが、その日は晴天に恵まれ、上野の山も大賑わいでした。

会員は4名の高女卒の先輩を含め58名の出席、母校から菊池校長先生、瓜生同窓会会長、小瀬川副会長、鎌田副会長、事務局の佐藤、葛尾両先生をお迎えし盛會となりました。



総会は矢野支部長の歓迎の挨拶に始まりました。菊池校長先生の挨拶では、インフルエンザの流行は母校も例外ではなく生徒たちを直撃。幸い皆軽かったとの報告に一同胸をなで下ろしました。創設1百周年への挨拶は、続いて瓜生会長の「花巻をユーモアあふれる花巻弁で話して下さいました。」

議事においては、活動報告、会計報告、会計監査報告と滞りなく無事終了いたしました。

第二部は待ちに待った懇親会。小瀬川副会長から乾杯のご発声をお願いして、談話が始まりました。今年の当番幹事21回生6名による全員参加のジャンケン大会は「最初はグー、ジャンケンポン」と盛り上がり大興奮でした。続いてのアトラクションは雰囲気急に変わり、パリトン歌手の古川精一氏によるミニコンサート。前支部長、山口さんのプロフィール紹介によりまずと、古川氏のお父さまは



花巻のご出身で大変花巻にご縁のある方でして、12年間ヨーロッパで活躍され、近年はコンサートや歌唱指導をしていらつしやいます。ピアノの斉藤菜緒さんの伴奏で幕は開きました。前半は日本の歌「早春賦」などしつと。後半は「帰れソレントへ」を始めイタリア歌曲を、全員が聞き入りました。アンコールの宮沢賢治の「精神歌」では胸に込み上げるものがありました。その余韻も覚めやらぬ内にフィナーレの恒例の「東京音頭」が始まりました。矢野支部長の指導で全員輪になり、体をほぐしました。

最後は旧校歌を全員姿勢を正し歌いました。

限られた時間でしたが、

懐かしい友と語り合い、楽しい、来年の再会を約束し閉会となりました。来年90歳を迎えられる静岡の御殿場からおひたりで出席された松尾様、「来年も来ますね」と指切りをして下さったのが印象に残りました。

北上支部

支部長 八重樫勳子
(南高2回)

北上支部は、二年に一度開催する支部総会を、平成二十二年六月二十七日、ホテルシティプラザ北上にて行いました。当日は語行事と重なり、例年に比して参加者が少なく三十名でしたが、来賓として瓜生会長、鎌田副会長、及川先生をお迎えして、例年通り、総会、講演、懇親会が行われました。

(一)総会
母校百周年を迎えるに当たることが会長よりお話いただき、協議では、重点事業、予算、決算、役員改選等話し合いました。その席上不肖私が支部長の役を頂きました。

会員皆様のご支援をたよりに、同級生の絆を深

め、友情を暖め、母校の応援、発展に繋がることを願って、役を務めたいと思っております。

(二)講演
市内永明寺住職の上野昌孝氏による「生かされて生きる」という題にてお話を頂きました。

その要旨は
最近は何が増えて心が減っている。物より心が大切である。心が「方寸」(胸のペトペトにある)にあれば、常に平静でいられるが方寸に居られなくなる。「頭にのぼり」「頭にきた」となる。その心が昂じると「切れた」という事になる。切れてしまえば、心が離れ、殺伐な事件が後を絶たない。心が切れてしまわない様に「臍下丹田」に持つゆくと「腹の出来た人」となる。そして「足心」心を足元につけた暮らしをし、「板に付く」暮らしをして欲しい。「語行無常」の世にあり、人はあらゆる物の「いのち」をもらって生きており、数え切れない先祖の命を頂き、生かされて生きています。

「終り良ければすべてよし」と云われるが、各人にとり、今が人生のクライマックスである。終りが良くなるように心静かに、感謝の心を持って生きる気持ちで、深く行きたい。と結ばれ、深く心に沁みのお話でした。

(三)懇親会
開幕は、斎藤澄子前支部長の格調高い祝舞に始まり詩吟、独唱、自己紹介等で交流を深め、フィナーレには、出来たてのほやほやの「花巻南高同窓会音頭」(瓜生会長作詞)を一同、輪になっておどり、歌手の藤原耕作さんの生の声で盛り上がり、身がほぐれるようでした。

現代の忙しく、殺伐とした世相の中で、この日は心あたたかく、楽しいひとときを過ごすことができました。次回にはもっとたくさんのお窓生が参加して下さいました。

この総会を開くに当たり、二十二年の年明けより、名簿確認、資料つくり、準備会等、前回の役員会、係会を行い、又、終了してから反省会を行って、次回に備え、親睦も深めております。今回は、庶務を担当して下さいました菊池豊江さんが、役を辞任された後も、名簿



石鳥谷支部

支部長 箱崎光子
(南高4回)

花南同窓生のみな様、こんにちは。石鳥谷支部でございます。当支部は二年に一度の支部総会でございます。平成二十二年六月二十七日(石鳥谷町内、新亀家)ご夫妻は、花南三回、六回)にて総会をいたしました。

今年にはたまたま、北上支部、東和支部、石鳥谷支部と、同日同時に開催されましたので、同窓会本部と学校側でご出席の人選配分にご苦労なさいようです。

の見直しをして下さり、総会案内を出すべく支部委員の逝去、転出、転入、住所変更など確認整理をし、冊子をつくり、総会の内容、役員の変遷等につき、記録をまとめて下さり、今後の支部活動の事務がスムーズに行われるように、地味な仕事を有りがたう役員一同感謝しております。

今年の一月三十日には、役員の新年会を行う予定にしております、楽しみながら、今後支部会の方向を定めていくことにしております。

同窓生が若くなる程、参加者が少なく、支部の活性化をどのようにするか、課題となっております。

同窓生の中澤優子様の三人のクラシックから演歌までの演奏となつた旧友の語らいで楽しいひとときをすごしました。藤井邦子様

より、南高同窓会音頭(作詞、瓜生祐子)のおどりをなおそわり、参加者三十名輪におおりました。参加者のパワーで百周年記念行事が成功しますよう祈つて散会となりました。

平成二十三年に母校が百周年をむかえます。明治四十四年花巻町花城に開校して平成二十二年、九十九年白寿をむかえました。節目でございますので、石鳥谷支部の役員一同が考えて考えました。

祝 花南高専学校創立百周年
花南同窓会、石鳥谷支部

と刻字の入ったA4クリアファイルを作成して、記念品として全会員五五〇名に配りました。

又懇親会の席には、白寿として紅白のおもちを用意致しました。当日ご高輪でご参加出来なかつた会員様にも、会終了後、役員で手わけしてさしあげました。

石鳥谷支部は昭和四十年に創設されております。初代の会長は故橋澤潤子様

(高女十四回)二代園テイヤ子様(高女二十回)三代故金子様(高女三十回)四代鈴木陽子様(南高五回)そして箱崎(南高四回)で

す。創設当時、本部より瀬川ハナ様、佐藤まつ様の、杏掛様らが新亀家につきまて、同窓会にかける熱意を話してくれました。又佐々木そは屋の二階で名簿作りやいろいろ相談したことなつかしく思い出されます。

百周年の月日の重さと、先人のご苦労に感謝の心をこめて、私達の青春の夢をつむいでくれた母校が、新しい一〇〇年にむかつてあります。



盛岡支部

支部長 堤 世知子
(南高2回)

平成二十二年の盛岡支部総会は、十月二十四日(サニール盛岡)において開催されました。

参加者は、女学校三十回生から南高十九回生までの八十六名と学校から副校長菅原英藤先生、同窓会事務局長佐藤陽先生、同窓会副会長長尾藤子様、副会長小瀬川陽子様、鎌田里子様、監事石川映代様をお迎えし総勢九十二名でした。

総会の挨拶では、副校長先生から学校の様子、後輩の学校生活、部活動での活躍、創立百周年記念事業の進行状況などが話されました。その後、参加者が各回毎に紹介され、事業や決算についての報告が承認されました。今年度は、役員改選の年にあたり、長い間副支部長として活躍された田高恭子さん、会計監事の平野ひささん、幹事会計の江森豊子さんが幹事やめたい江新し副支部長に黒川俊子さん、会計監事に川村喜喜りさんが決まりました。

その後、当番の十二回生により懇親会が進められました。同窓会長の瓜生様から百周年を盛り上げるために「同窓生として私達のできることは」と力強くご挨拶いただきました。

多田芳子様の乾杯の発声でもじまりました。今までの長テールから丸テールになったことで、おいしい食事をいただいたながらの会話はずみ、楽しい笑い声があちこちから聞こえてきました。会食が一段落したところで仙台在住の藤原寛子様(南高十二回生)をお迎えし「毎日の生活の色つぼく」をテーマに講演していただきました。ステージのスクリーンに色を写し出し、具体的な例をあげながら、色の効果、色から連想される感情、色の対比、明度、彩度、補色、面積、同化現象、色の性格、色から受けるイメージ、軽い色と重い色、興奮色と沈静色、進出色と後退色、膨脹色と収縮色、時間を長く感じる色と短く感じる色などを説明し、毎日の生活に色を取り入れることの大切さ、例えば、食生活では七色バランス健康法、インテリア

なら部屋の目的に合った色づかい、ファッションでは、若々しく見える色、暗く見える色など例をあけてお話しされるなど。好きな色と似合う色の使い分けなど、参考になることが多く、色使いの大切さを感じました。



その後、余興が始まり、堤の太極扇、みんなが楽しみにしている吉田さんの「エアロビック」です。音楽に合わせて、軽く体を動かし、その後で、LOVE Eを作ったり、グーパーと手開いたり閉じたりしながら左右に動かし、頭の出来ないどうすれは、と頭の体操も楽しみました。来賓の方々にも合唱していたので、最後に全員で輪になって、同窓生音頭と盛岡音頭を楽しく歌い踊りました。旧校歌を歌い来年の当番十三回生を紹介し、今年の当

番十三回生に感謝し、来年十月三十日、またこのサンセールでお会いしましょうと、一日の行事を終えました。

東和支部

会 計 小原嘉寿子

(南高9回)

平成二十二年度東和支部定期総会は、六月二十七日(旧)午前十時より「パレスまほろば」に於て行なわれしました。来賓として、菊池校長先生、同窓会副会長小瀬川陽子さん、事務局から二名の方のご出席をいただき、会員四十名の出席で、盛大に開催されました。菊池校長先生より挨拶に在校生の皆さんが勉学に部活動に活躍されていることをお聞きし、頼もしく思いました。小瀬川副会長さんからは、百周年の行事に向けての募金をお願いしたい旨のお話がありました。数年より遠野市在住の十名程東和支部に入っております。今回、その内の菊池悦子さんの司会と議事を進行しました。平成二十二年一度の事業報告、決算の承認を得て、平成二十三年度の事業計画、二、二十三年度の事業計画、

予算が提案され原案可決されました。前回の定期総会で東和支部の会則の改正がありました。今年三月、十年間庶務を担当して下さい小川キヌさんがお亡くなり、弔電を送った旨、藤井支部長から報告されました。

総会終了後、東和町出身の「世界のプリマドンナ伊藤敦子さん」について、瀬川司男東和歴史資料館館長さんに講演していただきました。「明治三十五年生まれの伊藤敦子さんは、二人の子供を友人に託し、昭和十二年イタリヤ、ミラノに渡り、オペラ歌手として蝶々婦人等々をヨーロッパ各国で五百以上も舞台に立ち、大活躍したそうです。昭和六十一年、八十五歳でお亡くなりされるまで、一度も日本に帰らず、二人の子供にも家族にも会わずに、イタリヤに骨を埋めた伊藤敦子は強い日本女性です。戦争がなければ、日本でも大きく取り上げられ、人々にも知られた人です。」と瀬川司男館長さんのお話しでした。講演の後、唯一残っている「子守歌」を聞かせていただきました。とてもきれいな

声でした。平和な時に生まれておればと残念に思いました。

懇親会では、踊りあり、歌あり、そして司会をした菊池悦子さんの手品で会を和やかにしてもらいました。最後に瓜生会長さん作曲の「同窓生音頭」の歌の披露がありました。その歌の踊りを来賓でいらした事務局の方に教わり、全員の輪踊りで楽しい会も終りになりました。

来年の母校百周年には、貸切りバスをチャーターして、多くの会員が出席できるよう、藤井支部長、事務局スタッフも頑張っております。終りになりましたが母校の益々の躍進を御祈念申し上げます。

文芸作品



夜更けに来る人

夜更けにいつも来る人は
粉雪の舞う街路灯の下を
足早にそっと横切つて来る
オーパーの襟を立てて
人通りのない雪明かりの道を
さらさらと踏みしめて来る

その人はいつから僕の世界の中に入ってきて入り込んでいたのだったろう
不思議な生命の輪廻を
僕は解き得ぬ運命の中に思う
僕の生はすべて
「夢幻」から育まれているのだろうか

夜更けにいつも来る人は
真昼の光りを嫌うように
昼の素顔を見せなかつた
誰も寝静まった夜更けに
そっと僕の前に現れて
今日の一日を話して聞かせるのだった

菊池 潔

(南高1回)



母校だよりの

平成22年度
進路合格状況

1 進学受験状況

今年度も9割の生徒が進学を希望し、推薦入試では、国立大学から専門学校まで、昨年を上回る100名の生徒が受験に挑みました。結果は以下のとおりとなり、ほぼ昨年を上回る良い結果を残すことができました。特に、国立大学の推薦受験は、22名が挑み、13名が合格、実に国立大学の推薦合格率は60%という高い合格率でした。医療系以外の専門学校を希望する生徒は前年より減少傾向にあり、四年制大学や短大を希望する生徒が増加傾向にあり、多くの生徒が受験生として頑張っています。

この大晦日と元日を除いた年末年始に研修会館(同窓会館)でセンター試験直前模試や学習会、特別講習を企画し、万全のバックアップ体制を敷いています。

主な合格先

(平成23年2月1日現在)

〈国立大学〉

- 鋼路台合格状況
- 国立公立大 (2) 弘前大
- (2) 岩手大 (3) 岩手県立大 (2) 山形大 (1)
- 前橋工大大 (1) 宇都宮大 (1) 都留文科大 (1) 秋田大 (1)
- 〈私立大学〉
- 盛岡大 (4) 東北学院大 (3) 富士大 (5) 日本大 (4) 東海大 (2)
- 宮城学院女子大 (2) 東京女子大 (1) 東京理科大 (1) 東京女子体育大 (1) 東北福祉大 (2) 他

〈短期大学〉

- 山形県立米沢女子短大 (1)
- 秋田公立美術工芸短大 (1)
- 大月市立大月短大 (2) 盛岡大短大 (1)
- 岩手看護短大 (1) 立教女学院短大 (1) 他

〈医療系専門学校〉

- 仙台医療センター附属仙台看護助産学校 (1) 岩手県立一関高等看護学院 (2)
- 岩手県立富高高等看護学院 (2)
- (2) 東京女子医科大看護専門学校 (2) 岩手リハビリテーション学院 (1)
- 慈恵第三看護専門学校 (1) 他

〈各種専門学校〉

- 盛岡医療福祉専門学校 (2)
- 専大北上福祉教育専門学校 (3)

2 就職内定状況

就職専門の希望者は昨年32名→昨年20名→今年18名と減少傾向にあります。近年の不況も関係し、進学してから就職の方が有利だという思いが浸透しているようです。内定率は8割を超えています。花巻地区の高校では最も高い内定率です。残り数名の生徒はこれから受験予定ですが、良い結果が期待されるといえます。

3 就職内定先

- 高卒からの就職は、以前と違い、進学することよりもかなり難しい状況です。
- 花巻温泉(株) (1)、イーエヌ大塚製菓(株) (1)、トヨタ紡織東北(株) (2)、リコー光学(株) (3)、東北資材工業(株) (1)、New Nissei Technology Corporation (株) (2) 他

主な内定先

(平成23年2月1日現在)



3年連続県大会優勝
沖縄インターハイ出場
(ソフトテニス女子)



創部初 県新人戦ベスト4 (ハンドボール男子)



全国選抜大会出場決定
(弓道)



沖縄インターハイ団体出場 (体操競技)



沖縄インターハイ円盤投出場 (陸上)



高総体・新人戦ともに東北大会出場 (剣道女子)



全国高総文祭2年連続出場 (囲碁将棋)

海外研修

平成22年11月29日(明)から12月6日(明)までの8日間、2学年国際科学系学系30名と引率教員3名 桐田、澤田、山影)は、ハワイ州オアフ島へ修学旅行を行いました。今回の海外修学旅行で生徒が変容した特筆すべき3点を述べさせていただきます。

一つ目は、自主性と積極性の飛躍及び英語力の向上です。花南祭で2年5組の生徒たちのパフォーマンスを見てこれはハワイでも何かやってくれたらと思ったり私では、生徒たちに自分たちで対面行事の出し物を準備するように指示しました。生徒たちは、後期中間審査終了後時間のない中で準備を行いました。また、発表当日も早朝練習をワイキキのホテルの近くのビーチで行い、本番ではダンス、歌、英語での学校紹介を予想以上の完成度で披露してくれました。翌日から授業参加が基本になりました。本校生徒

デントの受けている授業と一緒に参加しました。こっそり見に行ったブレнда先生の授業ではいきなりですが英語で立派に自己紹介はしており、それを見て私はほっとしました。レイレフア高校では私たちの訪問をビデオで撮影し校内ニュースとして制作してくれたのですが、本校生徒が何人かインタビューされ英語で受け答えしました。ホストファミリーとの別れの場面では、生徒を代表して小野寺克也君が感動的な英語で感謝の気持ちをつとてくれました(ちなみにその挨拶の後、教員を代表して山影先生が英語で締め括りました)。

二つ目は、異文化理解の向上と日本文化の再認識及びコミュニケーション能力の実践です。レイレフア高校では、ウククレ、(クリスマス用)クッキー、レイ(葉で作る首飾り)の授業に参加しました。慣れない本校生徒たちは、レイレフア高校の先生方と生徒さんらにサポートしてもらいながら何とかやり遂げました。

また、お返しに日本の「さくらさくら」の合唱や折り紙をお見せしました。桐田先生による「さくらさくら」の二部合唱は日本とハワイの合作で大感激でした。ホームステイでは、本校生徒は各家庭であたたかいおもてなしを受け、まるで木当の家族のように受け入れていただきました。そこでも多くのことを学んでくれました。

三つ目は、クラスの閉結です。困難な時間を共有した末に歓喜の瞬間を分かち合うことを今回何度経験したことでも多く学びました。

四泊のホームステイを終えてワイキキのホテルに戻るバスの中は久しぶりのクラスメートとの間でやっとうしがりです使えた日

本語で満ち溢れていました。今回の研修で私たち引率教員も生徒たちのあらたな一面を発見し生徒理解を深めました。普段は話せないことも多く語り合った生徒たちの間の人間関係は今後の困難に立ち向かう勇気を与えてくれたと思います。自主研修などの未知の状況で道に迷ったり、時間を間違えたり、いろいろな失敗はもちろんありました。

一人一人がたくましく成長しクラス全体もレベルアップできたと確信しています。まさに七転び八起き



です。

修学旅行前には生徒たちに「修学旅行は、3年間で自分とクラスが大きく変わる最後のチャンスだぞ」と言いました。普段おとなしい生徒や英語でのコミュニケーションが苦手な生徒も含めて全員が英語で24時間喋らなければならない状況

編集後記

「天は東北、山高く」に始まる旧制第二高等学校校歌は、作詞上井暁翠 作曲楠美恩三郎によるものです。

右のことから楠美恩三郎とは相当名のある作曲者であらうことは、想像に難くないところです。(註)楠美恩三郎 本校校歌作曲者 斯かる背景よりして、本校に寄せた当局の期待・熱意と云うべきものが痛い程伝わります。

況て数日のホームステイは無事やり遂げ何かが変わったはずで。

最後に、私についてきてくれた生徒たちと、復路をバスによる交通手段に変更することなどに協力していただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。大成功の修学旅行でした。

因みに作詞は、先刻ご承知のとおり松下雅雄本校初代校長であります。

さて、恒例の「座談会シリーズ」最終回は、同窓会長、各支部長による「座談会」でしたが、日頃のご苦労が随処に滲み出ており、このことに思いを致すとき、「ご参会各位に改めて深い敬意を表する次第でございます」。

本紙作成に当り快く原稿依頼に応じて下さった方々に対して感謝いたしております。 どうも有難うございました。

《編集委員》

編集委員長	高橋昭三(南2)	小瀬川陽子(南5)
編集委員	久保田晴弘(南3)	葛巻久美子(南18)
編集委員	鶴田やす子(南1)	鎌田里子(南25)
	藤井邦子(南3)	同窓会事務局
		及川真紀(教諭)
		葛尾欣児(教諭)